

OM-活第 2 号
2019 年 10 月 25 日

一般社団法人 日本建築学会
近畿支部支部長 山中 俊夫様

大阪市高速電気軌道株式会社
代表取締役社長 河井 英明



大阪市高速電気軌道株式会社（Osaka Metro）の駅舎改修計画に関する要望書について（回答）

秋冷の候、貴会ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は弊社の事業につきまして格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

2019 年 8 月 8 日付の「大阪市高速電気軌道株式会社（Osaka Metro）の駅舎改修計画に関する要望書」におきまして、弊社御堂筋線開業当時の駅舎群に係る文化的意義と歴史的価値について高く評価をいただき、厚くお礼申し上げます。

弊社の使命は「大阪から元気を創りつづけること」と定めており、安全・安心・快適にご利用いただける「社会生活インフラ」としての役割をしっかりと果たしたうえで、「新たな出会いや発見につながるデザイン・機能・仕掛けにより、人の心を動かして、生活をより豊かにする役割」を果たしてまいりたいと考えており、この役割を「活力インフラ」と位置づけ、大阪の活性化と益々の発展に寄与することを目指しております。

今回の主要 15 駅を対象とした駅舎改修計画では、お客さまに安全にご利用いただくための老朽化対策工事を実施する必要がある駅舎を主な対象としておりますが、その対策の実施に合わせ「活力インフラ」の役割を果たすための取組の一つとして、対象駅ごとの地域性や歴史性を活かしたデザインに刷新することとし、15 駅のデザイン案を昨年 12 月 20 日に発表いたしました。

デザイン案の発表以降、お客さまや地域のみなさまのご意見をお聴きし、また専門家のご意見も伺いながらデザイン案の具体化・ブラッシュアップを進め、本年 8 月 29 日に 15 駅のうち 5 駅の新しいデザインを発表いたしました。ご要望をいただいていた駅舎の一つである心齋橋駅におきましては、建設当時の天井のアーチ形状を活かしたデザインとするとともに、当時の天井デザイン要素を採り入れることなどにより当駅が持つ歴史性を受け継いでまいりたいと考えております。

今後も引き続き残る 10 駅のデザイン案のブラッシュアップを進めて参りますが、ご要望をいただいた駅につきまして、可能な限りその文化的意義と歴史的価値を継承できるような改修計画の検討を行って参りますので、何卒、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。